

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西区江向町六丁目計画	階数	地上7F
建設地	名古屋市区江向町六丁目42番、43番、44番、45番、46番1、46番2、47番、48番、54番、54番2、54番14、54番15	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年8月5日
敷地面積	2,486 m ²	作成者	
建築面積	936 m ²	確認日	2024年8月6日
延床面積	4,310 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★ BEE=1.0 環境効率チャート 環境負荷 L (0-100) vs 環境効率 C (0-100) BEE 1.3 (37%)	標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆ ①参照値 100% ②建築物の取組み 62% ③上記+②以外のオンサイト手法 62% ④上記+オフサイト手法 62% 46 (kg-CO ₂ /年・m ²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境 レーダーチャート

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4 音環境 3.1, 温熱環境 3.8, 光・視環境 3.2, 空気質環境 3.1	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 機能性 3.1, 耐用性・信頼性 3.0, 対応性・更新性 3.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2 生物環境 1.0, まちなみ・景観 3.0, 地域性・アメニティ 2.5
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.3 建物外皮の熱負荷 5.0, 自然エネルギー 2.0, 設備システム効率化 5.0, 効率的運用 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7 水資源確保 3.0, 非再生材料の使用削減 2.5, 汚染物質回避 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3 地球温暖化への配慮 4.5, 地域環境への配慮 2.5, 周辺環境への配慮 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 自然環境に配慮し、周辺環境に調和するように建物を計画し、室内環境の快適性に配慮した。また、社会の良質なストックとなるよう躯体の耐久性を高め、CO ₂ 排出量の削減に努めるなどして、ライフサイクルを通じた環境負荷低減をめざした。		
Q1 室内環境 遮音性能の高いサッシの採用や、外壁・屋根・窓などの高い断熱性能、庇等による日射熱負荷の低減により室内環境の快適性を高めた。また、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上材を用い、シックハウス対策に配慮した。	Q2 サービス性能 可能な限り居室天井高を2.5m以上とし、ゆとりある住空間の確保に努めた。また、躯体耐用年数は劣化対策等級3相当とし、建物の信頼性についても考慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 外観デザインは落ち着いたモノトーンの色彩計画を行うことで周辺環境との調和を図った。緑化率が10%以上となるよう計画し良好な景観を形成するように配慮した。
LR1 エネルギー 潜熱回収型給湯器の利用により建物の熱負荷抑制に配慮した。断熱等性能等級5とし、環境負荷低減をめざした。	LR2 資源・マテリアル フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。	LR3 敷地外環境 敷地内に十分な駐車・駐輪台数を確保して周辺道路に路上駐車することのないよう配慮した。主要道路から敷地内車庫へスムーズに入庫できるよう十分な敷地内車路を設けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称) 西区江向町六丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。